

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

新名神高速道路 川西IC～神戸JCTが3/18(日)15時に開通 西日本最大級の 宝塚北SAもオープン



上下線の駐車場およびメイントイレ、店舗棟を屋内で結ぶエントランスのメインストリート。

宝塚らしさが魅力のSAがオープン

NEXCO西日本が建設を進めてきた新名神高速道路で、3月18日、川西ICから神戸JCTまでの16.9kmが開通し、区間内には「宝塚北SA(サービスエリア)」が同時オープンする。西日本最大の店舗面積と西日本最大級の駐車台数を誇る。上下線どちらからでも利用できる集約型の施設で、一般道からの利用もできる点が特徴だ。「タリーズコーヒー」やヨーグルトジェラートの「Yogorino」が西日本の高速道路では初出店となり、「アンリ・シャルパンティエ」「神戸フランチ」などの商品も同じく初めて販売される。また、外観は「宝塚モダン」をコンセプトとした南欧スタイルで、エントランスにはアンティーク照明や突き出し看板で



渋滞緩和などに期待

今回の開通により、高槻JCTから神戸JCTまでの全線が開通。名神・中国道ルートと比べて所要時間は平均で約6分、朝夕の混雑時には最大で54分と大幅に短縮する見込み。また、新名神への交通の分散により、全国有数の渋滞スポットとして知られている中国道の宝塚トンネル付近の渋滞緩和や、災害時の緊急輸送にも寄与すると見込まれている。

異国情緒を演出。ショッピングエリアには、宝塚の地元銘菓や加工品などのほか、神戸や大阪、京都など関西のお土産商品を中心に取り揃える。また、宝塚歌劇や手塚治虫ゆかりのグッズも販売し、店舗前には「火の鳥」「鉄腕アトム」のトピアリー(庭木を刈り込んで造形したもの)を設置するなど、宝塚らしさを全面に打ち出した魅力いっぱいSAになる。



宝塚市中心部「花のみち」周辺の南欧風景をイメージした「宝塚モダン」をコンセプトにした建物の外観。



24時間営業の東西おみやげマルシェ。

お母さん記者による子育て情報紙 「お母さん業界新聞」が 大阪版を創刊

共感を生み、笑顔を増やす子育てしやすい大阪に

子どもとの生活の中での発見や感動から、食や子育てに関わる情報、インタビューまで、お母さんの想いがタブロイド判いっぱいに詰まった月刊「お母さん業界新聞」。全国版と4つのエリア版、地域ごとに発行する複数の地域版に加えて、3月から5紙目のエリア版として大阪版が創刊する。1月には創刊準備号が発行され、手配りのほか、大阪市内の図書館を中心として公共施設や商店などに1万部が設置された。

記事の企画や取材、執筆をするのは、お母さんやお母さんでない人も。子育て支援事業を展開するトランタンネットワー

ク新聞社(横浜市)が運営する「お母さん大学」所属の「マザージャーナリスト」だ。大阪版の編集スタッフは7人。週に一度、本部や他エリア版編集長たちとオンライン会議で企画について話し合う。活動費は広告費でまかなうが、スタッフはボランティアで、利益は出ない。仕事をしながら企画を考え、広告営業を行い、取材にも行く忙しい日々だ。しかし、大阪版の編集長を務める宇賀佐智子さんは「誰かが書いた文章で他の人が救われることもあります。共感し合うことで、孤独な子育てで悩むお母さんを支えたい」と話す。「特に、大阪は虐待の相談件数が全国で最多。子育てをみんなが応援してくれる大阪になってほしい」と、仲間とともに思いひとつで創刊に踏み切った。

原稿は全て実名掲載人の心に響く紙面を

創刊準備号の巻頭は、約30人の母親たちがメモとカメラを手にとり取材を体験した「大阪木津市場卸売ツアー」の活動報告。市場の人々にも協力を仰ぎ、実現した企画だ。「ただ『楽しかった』で終わらせたくないんです。今まで知らなかった世界に触れることで、お母さんにも取材先にも気づきになるような切り口で企画を立てるように心がけています」と宇賀さん。企業や地域を巻き込むことで、子育て中の母親を応援してくれる人を増やしていく。執筆した原稿は全て実名掲載。時代とは逆行しているが、「子どもに嘘はつきたくない」と情けない部

分も失敗もさらけ出し、自分の言葉に責任を持つことで、人の心に響く紙面が生まれている。しかし、新聞の発行そのものが目的ではない。お母さん同士が集まって新聞を折る「折り折りおしゃべり会」や地域との交流で、「孤育て」をなくすことが一番の目的だ。今後は、地域版を作る拠点を増やして、集まりや手配りの機会を広げていきたいという。「お母さんは頼りだけの弱い存在ではないはず。自ら行動を起こして地域とつながって、みんなで『百万母力(ぼりき)』を発揮したいです」。



大阪版の編集長を務める宇賀佐智子さん。

お母さんたちが集まって「お母さん業界新聞」の折り込みをする「折り折りおしゃべり会」の様子。新聞の配布場所は、随時FB「お母さん大学大阪支局」で更新している。



編集スタッフが子連れで行く編集会議の様子。大阪版の拠点は、大阪市平野区にある宇賀さんのご実家が営んでいた元果物店。

